

## 【参考】 不安定就労者等の年齢構成

○ 本調査の対象とする「住居喪失者」は、非正規労働者や失業者・無業者など、不安定就労の状態におかれている者が多いが、総務省統計局の「労働力調査」によって、これらに相当する者の年齢構成が全体としてどうなっているかを確認する。

○ 具体的には、「労働力調査」(平成18年)によって数字をひろうことのできる次の3類型について、本調査において大半を占めていた「男性」について試みる(参考表1・参考図1)。

「1年未満の有期雇用労働者(卒業者)」

「労働力調査」では「日雇」及び「臨時」と呼称される。直用労働者であるか派遣労働者であるかは問わない。ここでは、学生アルバイトを含めないよう「卒業者」のデータをひろった。これは、本調査(概数調査)における「非正規労働者(住居喪失者のうちの構成比46.3%)」のうちの常用分を除いた者に相当する。

「完全失業者」

本調査(概数調査)における「失業者(住居喪失者のうちの構成比20.3%)」に相当する。

「非労働力人口(家事・学業従事者を除く)」

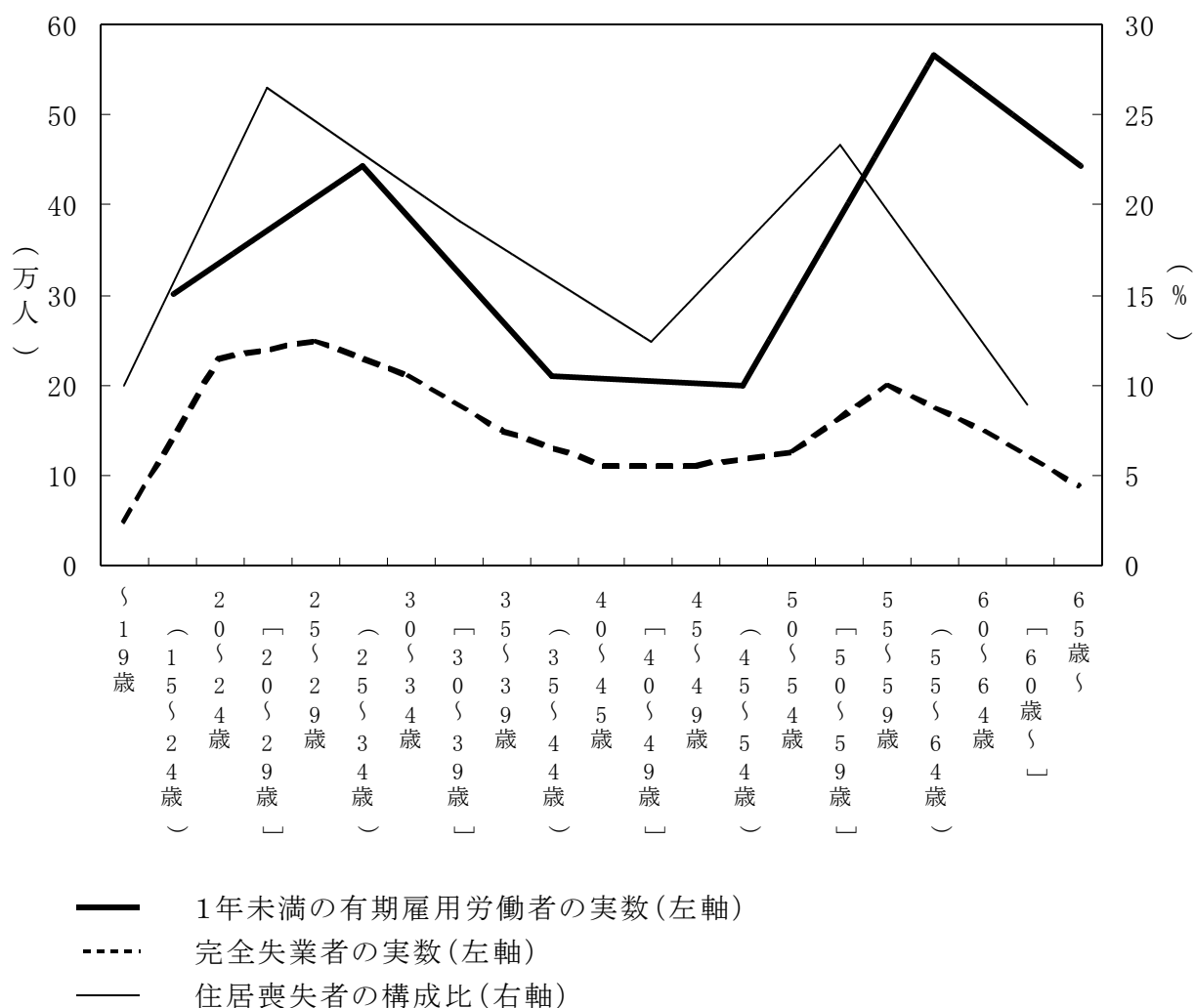
「労働力調査」における「非労働力人口」のうち、家事・学業に従事している者を除く「その他」の数をひろった。ただし、60歳以上は、不安定就労者等とは異質な、安定的雇用層からの定年退職者等が大量に参入してくることに留意。本調査(概数調査)における「無業者(住居喪失者のうちの構成比20.6%)」に相当する。

参考表1 「1年未満の有期雇用労働者」「完全失業者」「非労働力人口」の年齢構成(男性・全国) (万人(%))

	1年未満の有期雇用労働者 (卒業者)	完全失業者	非労働力人口 (家事・学業除く)
15～19歳	31 (14.1)	5 (3.0)	6 (0.6)
20～24歳	31 (14.1)	23 (13.7)	10 (1.0)
25～29歳	45 (20.5)	25 (14.9)	12 (1.2)
30～34歳	45 (20.5)	21 (12.5)	12 (1.2)
35～39歳	22 (10.0)	15 (8.9)	12 (1.2)
40～44歳	22 (10.0)	11 (6.5)	10 (1.0)
45～49歳	20 (9.1)	11 (6.5)	11 (1.1)
50～54歳	20 (9.1)	13 (7.7)	16 (1.6)
55～59歳	57 (25.9)	20 (11.9)	32 (3.2)
60～64歳	57 (25.9)	15 (8.9)	106 (10.7)
65歳以上	45 (20.5)	9 (5.4)	762 (77.0)
合計	220 (100.0)	168 (100.0)	989 (100.0)

(注)「1年未満の有期雇用労働者(卒業者)」については10歳刻みしかデータがとれない。

参考図1 「1年未満の有期雇用労働者」「完全失業者」と「住居喪失者」の年齢構成(男性・全国)



(注) 各データ系列によって年齢階層幅が異なるため、それぞれの年齢階層の中心に相当する位置にデータをプロットした。

- これによれば、「1年未満の有期雇用労働者(卒業者)」は、平成18年時点で、25～34歳層(45万人・20.5%)、及び55歳～64歳層(57万人・25.9%)において2つの山がみられる。
- また、「完全失業者」においても、20歳代(48万人・28.6%)と50歳代(33万人・19.6%)に2つの山が見られる。
- このような傾向は、本調査(全国)における「住居喪失者」及び「住居喪失非正規労働者」の年齢構成(本文第2部第3章3(1)参照)とほぼ合致するものである。